



子育てのおもいで

市民のかたからご応募いただいた「子育てのおもいで」作品を紹介します。



先日食事中、娘が「食べ終わった！」と言って茶碗を見てみると米粒が残っていました。私は思わず「米粒は一粒残らず食べるんだよ」と言ったのですが、ふと出たその言葉は大好きだった祖父がよく言っていた言葉でした。祖父は新潟の米農家の生まれで、ご飯を残すことには厳しい人でした。怒ると怖い人でしたが、私には甘く大変可愛がってもらいました。祖父は私が小さい時に亡くなってしまったので当然私の娘には会ったことはありませんが、祖父の精神が娘にも引き継がれていくことがとても嬉しく感じました。

常盤地区 Sさん 応募作品

米農家のおじいさまの、1粒のお米を大切にするという教えは、とても素敵なことです。お米を1粒でも大切にすることは物を大切にすることにつながります。また、子供の頃の経験や体験は、幸福感や満足感ができ、大人になっても心に残っているものです。子供たちにも色々な経験や体験を通して、心に残る物を沢山作れるといいです。そして、おじいさまの教えのように物を大切にすることを益々育てていきたいです。



家庭教育アドバイザー

親子でクッキング！重忠汁

創作郷土料理として、深谷市の学校給食でも馴染みあるメニューです。川本地区出身の武将「畠山重忠」が、荒川のウグイスの瀬で石投げをしてよく遊んでいたことから、白玉団子を石に見立てて入れています。味付けに使う赤みそも、本来は重忠みそを使用します。



◇材料（4人分）◇

ごぼう	30g
にんじん	40g
大根	45g
里いも	95g
長ねぎ	35g
こんにゃく	40g
白玉団子	80g
サラダ油	小さじ1/2
水	2カップ
厚けすり	12g
和風だし	小さじ1/2
赤みそ	40g

◇作り方◇

- ① 材料の下処理をする。
ごぼう…ささがき にんじん…いちょう切り 大根…いちょう切り
長ねぎ…小口切り 里いも…いちょう切りにして、ゆがく
こんにゃく…角切りにして、ゆがく
- ② 鍋に水を入れ、厚けすりでだしをとっておく。
(だしパック等を使用してもよい)
- ③ 熱した鍋にサラダ油をひいて、ごぼう、にんじん、大根、こんにゃくの順で炒める。
- ④ ②でとっただし汁を加える。
- ⑤ 里いもを入れて野菜がやわらかくなるまで煮る。
- ⑥ 白玉団子を入れる。
- ⑦ 白玉団子が浮いてきたら、和風だしと赤みそを加えて調味する。
- ⑧ 最後に長ねぎを加えて出来上がり。

和食は食器の並べ方が決まっています。茶碗は左、汁椀は右、おかずはその奥に置き、はしは先を左に向けて、手前に置くようにします。これも食事のマナーのひとつです。

食事マナーは、相手への思いやりの気持ちがあらわれたものです。食器の持ち方や姿勢、話す内容に気を配り、一緒に食べる人に不快な思いをさせないようにすることが大切です。

(文：市内小学校栄養教諭)



家庭教育だより

まごころ



編集・発行 深谷市教育委員会 生涯学習スポーツ振興課

家庭教育だより「まごころ」編集委員会

〒366-8501 深谷市仲町 11-1 TEL048-572-9581



No.51

令和5年8月号

【ルール・マナー特集】

近年、多様化を尊重する風潮が高まっていますが、ルールやマナーがあつての多様化社会です。今号では家庭や社会のルールやマナーについて、改めて考えてみましょう。

家庭教育・子育てについて振り返ってみましょう



「社会のルールやマナーは家庭から」と言われているように、人格形成の出発点は家庭であり、教育の原点は家庭教育にあると言われています。

人間以外の他の哺乳類の赤ちゃんは、生まれて数十分・数時間で立ち上がり歩き出すばかりか、自分の力で母乳を飲み始めます。しかし、私たち人間の赤ちゃんは泣くことで親の気づきを促し、母乳を与えてもらったりおむつを替えてもらったり、親の手助け無しには何もできません。立ち上がり歩き出すまでには1年前後の時間を要し、その後スプーンや箸の持ち方、衣服の着方等々生活のすべてを手取足取りの支援を受けて育ちます。また、言葉も親や家族との関りの中で少しずつ覚え、家族という小さな社会で関わり方やルールを身に付けていきます。親は、子どもにとって最も身近な大人であり、最も信頼する存在ですので大きな影響を受けながら育ち、他の動物とは比べものにならないたくさんのかんことを獲得していきます。自分の身の回りの事が一人で出来るようになってからも親の存在は大きく、それぞれの成長段階に合わせて人生の先輩である保護者の指導助言を必要とします。

子どもは成長すると親離れの時期を迎えますが、子どもが未成年であるうちは、その親に保護責任が生じます。このことから、親は子に対して「やってよいこと。悪いこと。」の判断がきちんとできるように、様々な機会をとらえて指導していくことが肝要です。親は子どもが何歳になっても子の幸せと活躍を願い、「子に災いある時は命に代えても守ってあげたい」と思うものです。この思いを「家庭の約束」というルールやマナーに置き換えて関わり続けることで、子どもを守り子どもを勇気づけ、信頼関係を築いていけるのではないのでしょうか。「親に守られている。愛されている。」という実感が「親や家族に迷惑をかけられない。親の期待に応えたい。」という道徳心や規範意識を醸成することになっていくものと思います。

『学力格差はかかわり格差』という学者説もあります。忙しさの中にあっても、できる限り子どもにかかわり、かかわり方を工夫しながら親も成長していけるよう、家庭教育が育む社会性について振り返ってみましょう。

深谷の子 「6つの誓い」

(文：深谷市社会教育指導員)



夢



毎日勉強



体験



すすんであいさつ



くつそろえ



心こば

深谷市の目指す子ども像の育成につながる行動目標です！



我が家のマナー紹介

公民館主催「親の学習講座」の参加者(市内小・中学生の保護者56名)を対象に行った、我が家のルール・マナーに関するアンケート結果の一部を次のとおりまとめました。記事を参考に、各々の家庭でマナーについて話し合ってみましょう。(自由記述方式でいただいた回答を、同類の項目で集約。)

大切にしている我が家のマナー・ルールについて

＼多かった回答ベスト5／

★あいさつをする

(おはよう、ありがとう、ごめんなさい、ただいま、おかえり etc)



★時間・約束を守る

(テレビやスマホ時間を決める、遊びは宿題や明日の準備が終わってから)



★自分のことは自分で

(靴を揃える、自分の食器は自分で片づける、出した物は元の場所に戻す)



★家族の繋がりを大切に

(学校であったことを話す、家庭内コミュニケーションを大切にする etc)



★言葉遣いに気を付ける・与えられた役割をしっかりとやる

(相手が嫌な気持ちになる言い方はしない、動物の世話を忘れずにする)



こんな素敵なマナー・ルールもありました

- ・寝る前に、今日の出来事(特に楽しかったこと、頑張ったこと)を話して、グーして「明日も頑張ろう」といって寝る。
- ・困ったことがあったらすぐに相談し、家族みんなで考えて対応できるように考える。



家庭内でのマナーは、家庭・社会生活を営むうえでどのような影響を与えますか。

- ・家庭での影響は大きいと思います。礼儀やマナーは学校だけでなく、家庭でも指導することで、子どもが成長していけると思います。まずは、親は子の鏡という言葉があるようにお手本を見せることが大事だと思います。
- ・社会に出ていく上での基礎となるので、家庭内でのマナー、ルールを守ることは大切。
- ・家庭でのマナーは子どもたちが社会生活を営む際の基盤となるものであると考えています。
- ・食事のマナーは伝えています。箸や茶碗の持ち方など、大人になって社会に出たときに恥ずかしくないようにしたいと思っています。



マナーの原点はあいさつから

家庭教育アドバイザー 柚山 君

皆さんはマナーと聞いて、何を思い浮かべるでしょう？食事のマナー・電車の中でのマナーなど、日常生活の中には〇〇のマナーといわれるものがたくさんあります。

その中でもっとも身近で、生まれてまもなく身に付けるマナーが「あいさつ」です。赤ちゃんが生まれると、両親は顔を見て「おはよう」と声を掛けます。返事はまだ返ってきませんが、笑顔は返してくれますね。少し大きくなるとお手伝いをしてくれます。そのとき「ありがとう」と声を掛けると、それが今度は自分で言えるようになります。こうやって小さなお子さんから「あいさつ」は自然に身に付けられ、将来社会に出て役立ちます。

大人は自分が子どもの頃に学んだマナーを、今の子どもたちに伝える役目があります。子どもの成長に伴い家庭内での「あいさつ」やコミュニケーションは減る傾向にありますが、幼いときに身に付いたマナーは、きっと大人になっても忘れることは無いでしょう。

マナーは様々な場面において、私たちの今の生活を守ってくれています。「マナーが守られる社会」、そんな社会で子どもたちがのびのびと成長して欲しいものです。

【わが校自慢】 上柴中学校

～地域と共に 夢・志の実現を目指す～

●学校教育目標● 自ら学ぶ生徒・心豊かな生徒・たくましい生徒



本校の学区である上柴地区は、大型商業施設や深谷赤十字病院を中心に、周辺に住宅が広がる地域です。小・中学校ともに転出入が多く、子どもたちは小さい頃から、いろいろな地域から集まった友達とかかわることを通して「多様性」を理解し、それらを自然に受け入れることができる「寛容性」を身につけています。この「多様性」と「寛容性」こそ、世界の国々と関わりながら生きていく「令和の子どもたち」にとって大切なものであり、上柴中学校の大きな「強み」となっています。

そんな上柴中学校は、昭和59年4月に開校した市内で最も新しい中学校ですが、今年、創立40周年を迎えました。「40周年」の冠をつけた学校行事を実施するなど、記念の年にふさわしい1年となるように取り組んでいます。生徒会・生活安全委員会を中心とした交通マナーアップの取組もその1つで、大切な命を守るために『ルール』交通法規を遵守することはもちろんのこと、思いやりと感謝の気持ち『マナー』をもって、地域のみなさんやドライバーのみなさんと共に、笑顔の時間を共有したいと考えています。

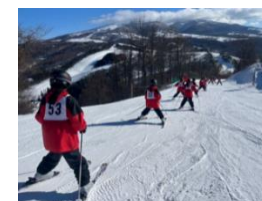
自分たちの交通マナーを向上させることで地域に笑顔を増やしたい、それが上柴中学校の願いです。



ふれあい20キロウォーク



自然体験宿泊学習



スキー教室



3年生を送る会



“清潔な身だしなみ”も大切なマナー・エチケット

マナーというと、あいさつや食事の仕方など礼儀作法を思い浮かべるとと思いますが、身体を清潔にすることも病気の予防だけでなく、人と接する上で大切なマナー・エチケットといえます。

小さな時から“清潔な身だしなみ”を習慣にし、小学校に入学したら徐々に自分で整えられるようにしましょう。また、せっかく身につけた習慣でも、中学生くらいになると、おそろかになってしまうこともあります。髪型や外見を気にすると同時に、基本的な身だしなみも忘れないよう、時々声をかけてみてください。

清潔な身だしなみチェック

☆前日に用意できることはしておきましょう。

□ハンカチ・ティッシュは持っていますか？

手を洗った後、ぬれたままだと、雑菌がつきやすくなります。手を振って水を切ったり、服でふいたりするのはマナー的にNGです。

また、くしゃみをして鼻水が出たり、暑い時に鼻血が出たりすることもあります。ティッシュを持つ習慣も身につけましょう。

□つめは短く切っていますか？

つめが長いと、友達にケガをさせてしまうかもしれません。また、爪が長いと雑菌が繁殖しやすいです。自分で切るようになるタイミングは個人差があります。6歳くらいから自分で切りたがったらサポートしてあげましょう。



□下着をつけていますか？

下着は汗や皮脂を吸い取り、肌を清潔に保ちます。また、肌寒い時は保温効果もあります。

□歯みがきはしていますか？

朝と夜寝る前はもちろん、昼食後にも歯をみがきましょう。みがき残しがないよう、鏡を見ながらみがけると良いでしょう。

(文：市内中学校養護教諭)